

10年後どんなまちにしたい、どんなまちに住みたい

◆◆◆ そのために何が必要、何ができる ◆◆◆

## 三重と森本でまちづくり住民交流会開く



▲三重まちづくり住民交流会の挨拶で開催主旨を述べる新田良文会長。関係者含め 28 人参加 (7月23日 三重公民館)



▲森本まちづくり住民交流会の挨拶で人口減少について述べる丸井洋市農法委員長。関係者含め 27 人参加 (7月29日 森本公民館)

未来に向けた地域づくりについてさまざま意見や思いを出し合う「まちづくりの住民交流会」を7月23日に三重公民館、7月29日に森本公民館と二回開きました。  
第2次三重・森本地域づくり計画策定の資料とするため、住民の皆さんが自由に意見を出し合う場をつくったものです。  
交流会では、去る二月に高校生以上全住民を対象に行った「まちづくり住民アンケート」の結果をパワーポイントで説明。続いて十年後にどんなまちにしたいか、そのために何が必要かなどを付箋に書き、それぞれ参加者の思いや考えを出し合いました。  
「巣立った子が帰ってきたくなるような地域に」「健康で長生きしたい」「子どもの声が聞こえるまちに」「居酒屋がほしい」など貴重なご意見がたくさんありました。

## 第2次三重・森本地域づくり計画 来年2月末完成めざす

三重・森本里力再生計画(平成25年～令和4年)の改定期を迎えたことから、令和3年10月に三重・森本地域づくり計画策定委員会(9人)を立ち上げ、2年をかけ第2次計画の策定を進めてきました。

これまでの10年間の里力活動の課題や成果、人口減少と住民アンケート結果、まちづくり住民交流会まとめを踏まえ、これからの10年間の地域づくりの指針を示します。来年2月末の完成をめざし奮闘しています。

完成した計画書は全戸配布します。

次のとおり加工品販売をします。お待ちしております

日時 10月29日(日) 13時30分～15時  
場所 三重公民館下駐車場(雨天は公民館)  
森本公民館前  
内容 ぼた餅、栗おこわ、こんにゃく、漬物など加工品販売

来場者にぼた餅  
1個プレゼント  
(数に限りあり)

まんぐるわ  
感謝祭  
三重と森本で  
ぼた餅など販売

## 生物多様性米

# さとこめ ゲンゴロウ郷の米

いかがですか

～～ 新米販売中 栽培仲間募集中 ～～

今年も「ゲンゴロウ郷の米」の刈り取りが終わり、香りのよいツヤツヤと輝いたお米がとれました。

平成29年から作り始めて7年目、生物にやさしい農法で行う米作りは生物多様性・環境保全につながります。栽培基準により小町の里生産組合（芦田完二代表：12人）と森本アグリ（株）の皆さんが今年もおいしいゲンゴロウ米を作りました。

新米の注文は、里カホームページから、または農法委員会担当（芦田：☎64-4091）へ連絡ください。

2kg入 1,500円、5kg入 3,500円

京丹後市ふるさと納税返礼品にもあります。

また、ゲンゴロウ郷の米と一緒に作る三重と森本の仲間を募っています。栽培基準は右記のとおりです。

### ゲンゴロウ郷の米は

平成28年、龍谷大学×地域協働事業で、絶滅危惧種に指定された二種類のゲンゴロウを発見しました。

地域の自然資源の豊かさの指標としてゲンゴロウを活用し、ゲンゴロウと共生できるお米づくりに取り組んでいます。

### ゲンゴロウ郷の米 稲刈り体験イベント



小さい手でカマをにぎり稲刈りをする子どもたち

9月9日、親子3家族を招き、ゲンゴロウ郷の米「稲刈り体験イベント」を開きました。

ゲンゴロウ米の認知度向上と販売促進、三重・森本の応援団（関係人口）を増やすのが目的です。

今回は、来秋（令和6年）の本イベント開催に向けたイベントとして行いました。



ゲンゴロウ郷の米（2kg入・5kg入）

### ゲンゴロウ郷の米 栽培基準

- ① 品種はコシヒカリとする
- ② ひよせ（中干後、生き物が住めるようにつくられた水路）を作る
- ③ ネオニコチノイド系農薬を使用しない
- ④ 中干の時期を遅くする（オタマジャクシがカエルになる時期まで待つ）
- ⑤ 化学肥料・農薬を半分以下に減らし、生物多様性に配慮しながら栽培する
- ⑥ 水田・ひよせで中干の前後に生き物調査を実施する

里カ再生協議会 農法委員会

### ゲンゴロウ郷の米 大宮南小5年生が勉強

9月12日、大宮南小学校5年生14人が「ゲンゴロウ郷の米」について学ぶため森本の田んぼにきました。

丹後地域のお米のことを勉強している子どもたちから、給食で食べているゲンゴロウ米について知りたいと要望があったもの。説明役は、フィールドワークをこの日に設定し森本に来ていた龍谷大学谷垣ゼミの学生10人のみなさんでした。



ゲンゴロウ田の「ひよせ」で生き物調査をする大宮南小の子どもたち